

スーパーマーケット景気動向調査

2025 年 5 月調査結果（4 月実績）
（2025 年 5 月 21 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

5月調査（4月実績）結果概況

現状判断DIは前月水準で推移

4月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DIの現状判断は前月から-0.8の49.0、見通し判断が前月から+1.6の45.8となり、共に大きな動きはなく、前月水準で推移した。

経営動向調査では、売上高DIは前月に引き続き二桁プラスを維持、収益DIは小幅な上昇となった。生鮮品仕入原価DIが低下したものの、食品仕入原価DIは高止まり傾向が続き、販売価格DIは高水準での推移が継続している。来客数DIはマイナス域に低下したものの、客単価DIは高水準を維持している。

カテゴリー動向調査では、相場に落ち着きが見られた青果DIは大きく低下したものの、それ以外のカテゴリーは前月から小幅な上昇となった。米の価格高騰等により、一般食品DIは二桁のプラスを維持、高騰する食品の代替としても支持が高い惣菜DIもプラス圏を維持している。（カテゴリー別動向に詳細掲載）

景況感調査は現状、見通しともに前月水準で推移し、大きな変化はみられなかった。（長期傾向はP11参照）

米の価格高騰を背景に、関連・代替商品を含めて売上が伸長する状況が続く一方で、他の食品でも価格の上昇傾向が続いており、買上点数の減少、低価格商品へのシフトがみられ、節約志向の一層の高まりを懸念する声が多くなっている。その一方で価格競争も激化しており、この状況を放置すれば、持続的なデフレ脱却を実現するのは困難といえよう。外的要因による価格高騰に対し、小売業のみでの対応には限界がある。食料品の軽減税率引き下げなども話題となっているが、期間限定では反動減や作業の増大、物流の逼迫などが懸念される。コメ問題も含め、小売業者の負担増につながらない適切な措置の速やかな実行が期待される。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：49.0 (-0.8)
前月：49.8

消費者購買意欲DI
当月：45.9 (-1.1)
前月：47.0

周辺地域 競合状況DI
当月：44.7 (-0.4)
前月：45.1

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：47.4 (+0.8)
前月：46.6

見通し判断

景気判断DI
当月：45.8 (+1.6)
前月：44.2

消費者購買意欲DI
当月：43.2 (+0.3)
前月：42.9

周辺地域 競合状況DI
当月：42.8 (0.0)
前月：42.8

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：45.1 (+0.6)
前月：44.5

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：14.2 (+0.5)
前月：13.7

客単価DI
当月：18.6 (+1.0)
前月：17.6

来客数DI
当月：-3.1 (-3.4)
前月：0.3

収益DI
当月：7.2 (+3.7)
前月：3.5

販売価格DI
当月：24.0 (-0.1)
前月：24.1

生鮮品仕入原価DI
当月：17.1 (-4.5)
前月：21.6

食品仕入原価DI
当月：25.4 (+2.2)
前月：23.2

カテゴリー動向

青果DI
当月：12.3 (-11.6)
前月：23.9

水産DI
当月：-6.2 (+4.8)
前月：-11.0

畜産DI
当月：4.1 (+8.4)
前月：-4.3

惣菜DI
当月：14.1 (+3.9)
前月：10.2

日配DI
当月：3.5 (+2.4)
前月：1.1

一般食品DI
当月：19.1 (+4.7)
前月：14.4

非食品DI
当月：-5.1 (0.0)
前月：-5.1

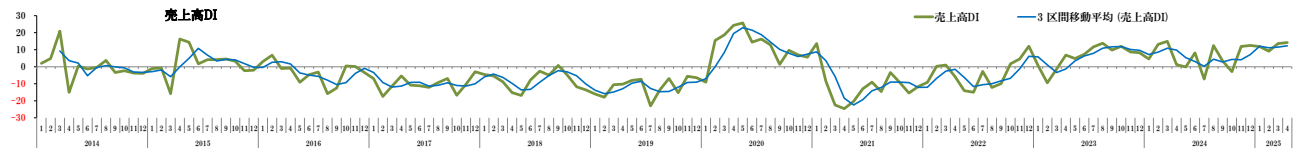
※DI 値は前年同月との比較／（ ）内は前月DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高 DI

前月から小幅に上昇し、プラス幅を拡大

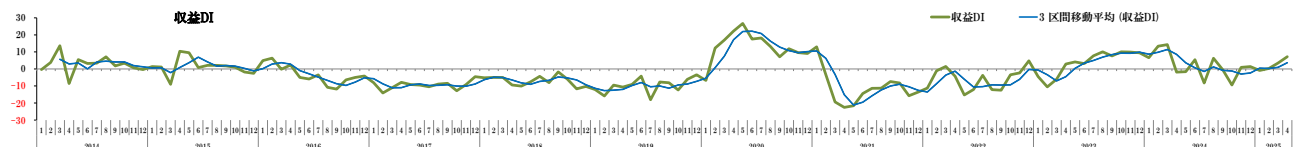
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	2.5	9.8	30.1	46.0	11.7	13.7
売上高 (当月)	2.7	8.9	28.8	47.9	11.6	14.2



2. 収益 DI

前月から上昇、プラス幅を拡大

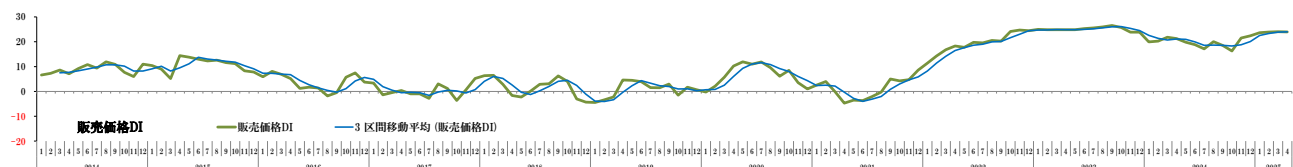
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	7.0	15.8	39.2	32.3	5.7	3.5
収益 (当月)	3.5	15.4	36.4	38.5	6.3	7.2



3. 販売価格 DI

前月から横ばい、二桁プラス水準で推移

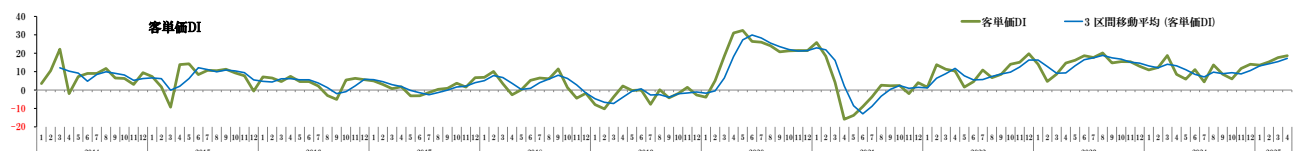
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.6	0.6	13.0	73.5	12.3	24.1
販売価格 (当月)	0.7	1.4	12.5	72.2	13.2	24.0



4. 客単価 DI

前月から小幅に上昇、二桁プラス水準を維持

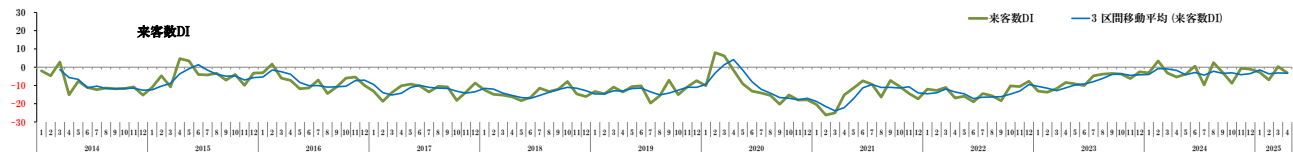
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	0.6	5.6	24.7	61.1	8.0	17.6
客単価 (当月)	0.7	3.4	24.8	62.8	8.3	18.6



5. 来客数 DI

前月から下落、マイナス圏で推移

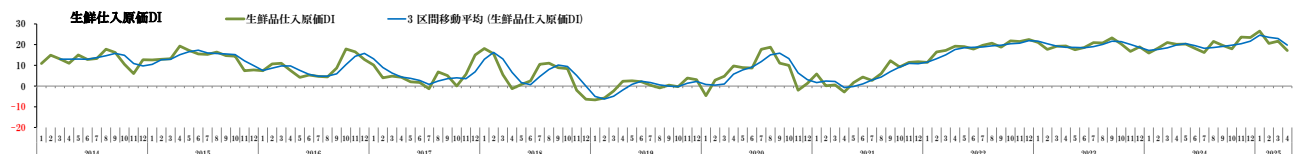
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	2.5	29.6	35.8	28.4	3.7	0.3
来客数 (当月)	4.1	28.8	44.5	20.5	2.1	-3.1



6. 生鮮仕入原価 DI

前月から下落するも二桁プラス水準を推移

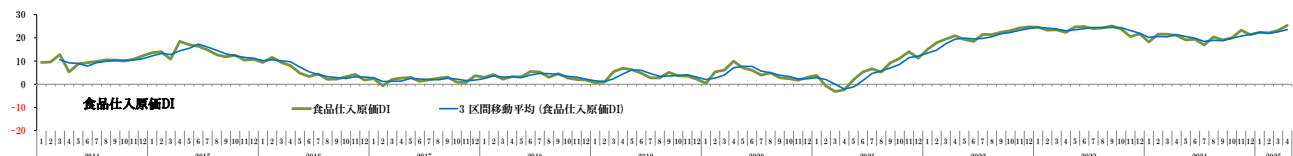
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.6	5.1	14.7	66.0	13.5	21.6
生鮮仕入原価 (当月)	0.7	9.3	19.3	62.1	8.6	17.1



7. 食品仕入原価 DI

前月から小幅に上昇し、48か月連続プラス域

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	0.7	3.9	13.1	66.7	15.7	23.2
食品仕入原価 (当月)	0.0	1.4	15.0	64.3	19.3	25.4

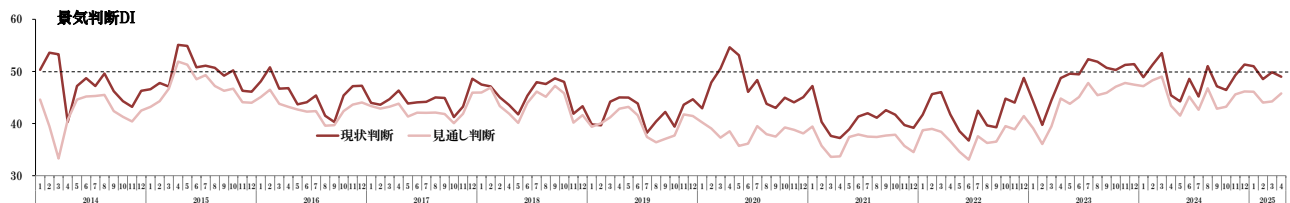


Ⅱ．景況感調査（2014年4月～／周辺地域景気判断 2010年4月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断は小幅に悪化も、見通し判断が改善

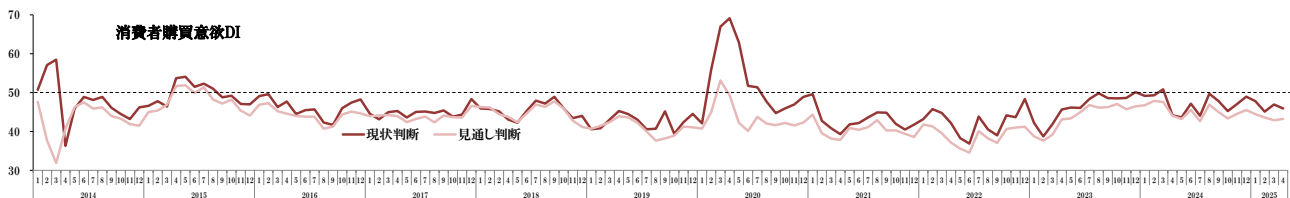
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	1.8	16.4	62.4	19.4	0.0	49.8
【現状】景気判断（当月）	1.4	14.9	70.3	13.5	0.0	49.0
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	3.0	27.3	59.4	10.3	0.0	44.2
【見通し】景気判断（当月）	2.0	24.3	62.2	11.5	0.0	45.8



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は小幅に悪化、見通し判断は横ばい

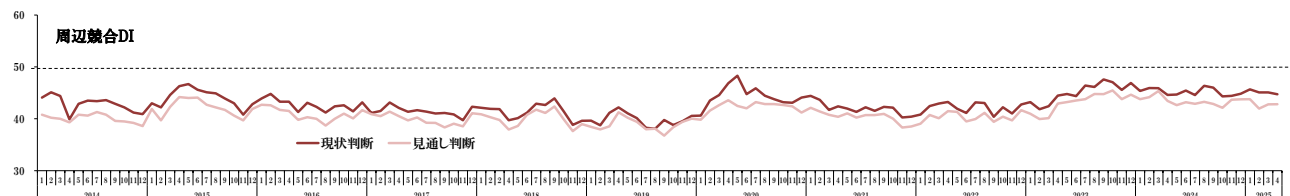
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	0.0	22.0	68.3	9.8	0.0	47.0
【現状】購買意欲（当月）	1.4	19.6	73.0	6.1	0.0	45.9
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	1.2	30.3	64.2	4.2	0.0	42.9
【見通し】購買意欲（当月）	1.4	28.4	66.2	4.1	0.0	43.2



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に前月水準で推移

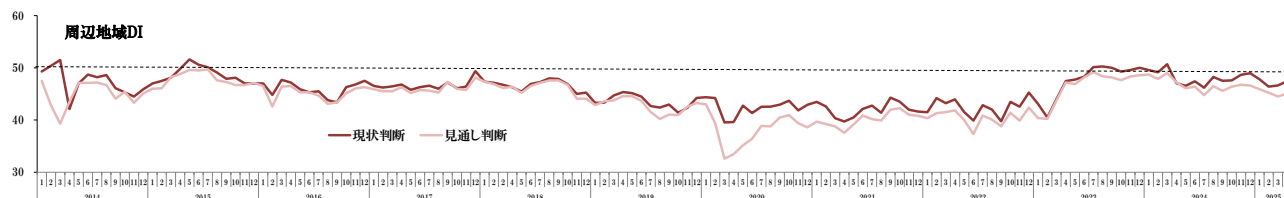
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	3.1	16.0	78.5	2.5	0.0	45.1
【現状】競合状況（当月）	4.1	15.0	78.9	2.0	0.0	44.7
回答構成比（％）	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	3.7	22.7	72.4	1.2	0.0	42.8
【見通し】競合状況（当月）	4.1	21.9	72.6	1.4	0.0	42.8



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に小幅に改善

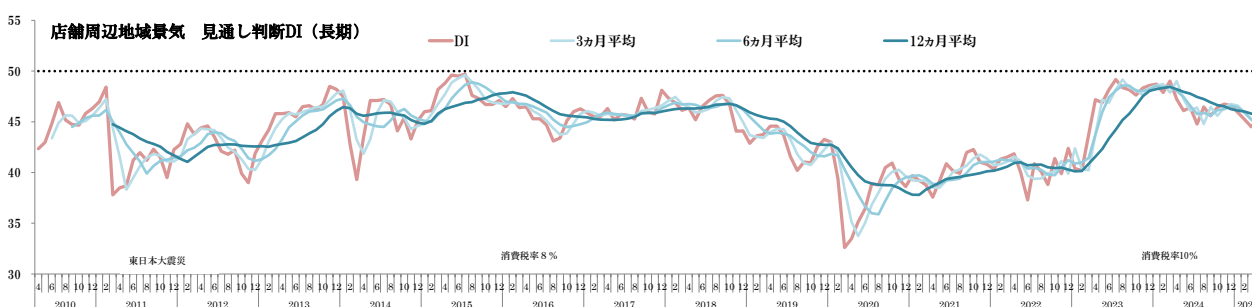
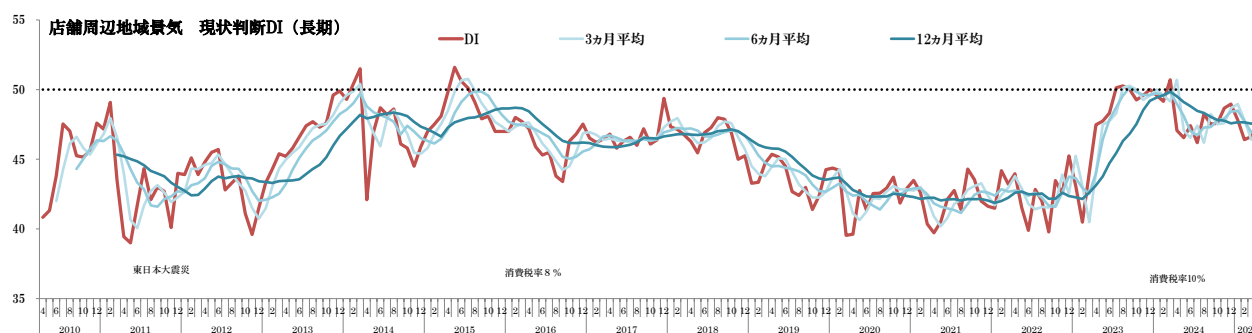
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	0.0	16.6	80.4	3.1	0.0	46.6
【現状】地域景気(当月)	0.0	13.6	83.0	3.4	0.0	47.4
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	0.0	25.6	70.7	3.7	0.0	44.5
【見通し】地域景気(当月)	0.0	23.1	73.5	3.4	0.0	45.1



・中核店舗周辺地域景気判断 DI 長期傾向（2010 年 4 月～）

周辺地域景気判断 DI は 2011 年 3 月の東日本大震災以降低迷が続けたが、12 年 11 月から 16 ヶ月にわたる改善が続き、14 年 3 月は現状判断 DI が 51.5 を記録。14 年 4 月の消費税率 8% 引き上げにより大幅に悪化するも徐々に持ち直し、15 年 5 月には現状判断 DI は 51.6 に達し、調査開始以来の最高値を更新した。その後 15 ヶ月間にわたり悪化傾向は続き 16 年 9 月には、現状判断 DI は 43.4 まで低迷した。

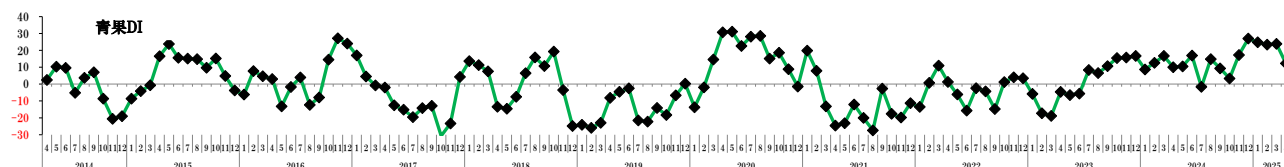
以後方向感の乏しい推移が続いたが、18 年の後半から悪化傾向が顕著となり、19 年 7 月には現状判断 DI は 42.3 まで低下した。21 年は、感染状況により上下する動きとなった。22 年は、感染が再拡大した 7 月以降に大幅な改善をみせた。23 年も改善が続き、7 月には判断の分かれ目である 50 を突破、その後も高水準を維持した。24 年前半に悪化したものの、後半は緩やかな改善傾向が続いた。25 年はダウントレンドが見られるが、3 月まで悪化幅は限定的となっている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果 DI：12.3（好調）

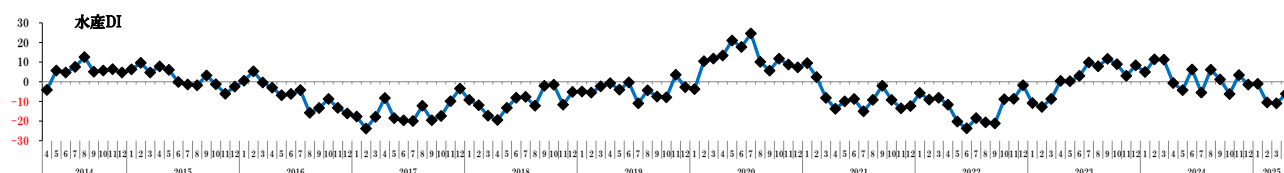
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	1.3	8.4	15.5	43.2	31.6	23.9
青果（当月）	1.4	16.2	28.9	38.7	14.8	12.3



相場に落ち着きが見られはじめ、一品単価は下落したが買上点数が増加、売上高としては好調を維持した。相場の安定したキノコ類や、カット野菜の動きが引き続きよい。前年より気温が低く、土物類、根菜類などホットメニュー関連は相場高も好調となった。キャベツ、レタスを中心に価格が低下した葉物類は購入点数が増加傾向だが、サラダ関連野菜は好不調がわかる結果となった。果実では入荷が増え、値ごろ感が出たイチゴが好調。輸入果物ではバナナやキウイフルーツが好調とのコメントが多い。

2. 水産 DI：-6.2（やや不調）

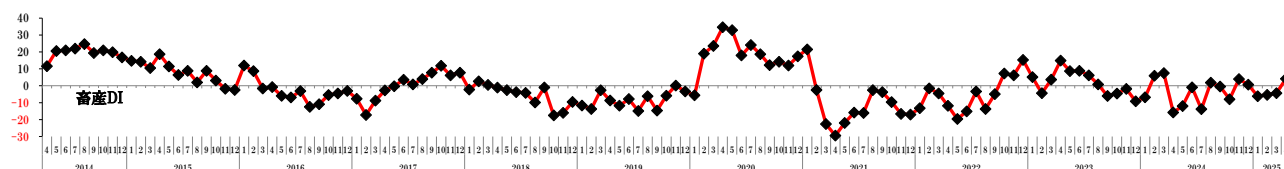
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	9.6	38.9	38.9	11.5	1.3	-11.0
水産（当月）	6.4	38.3	31.2	22.0	2.1	-6.2



前月からの傾向に大きな変化はなく、相場高傾向に加え、引き続き生魚の入荷が不安定で、販売に苦心したとの声が多い。わかめ、もずくなどの海藻類や味付加工品、冷凍加工品など即食・簡便ニーズに対応した商品が好調とのコメントが多かった。刺身類は好不調の判断が分かれた。ブリやホタテは値上がりで、シラスやいかなごは不漁で不調となった。うなぎは国産の高騰で伸び悩んだ。魚卵・塩干は引き続き厳しい。

3. 畜産 DI：4.1（やや好調）

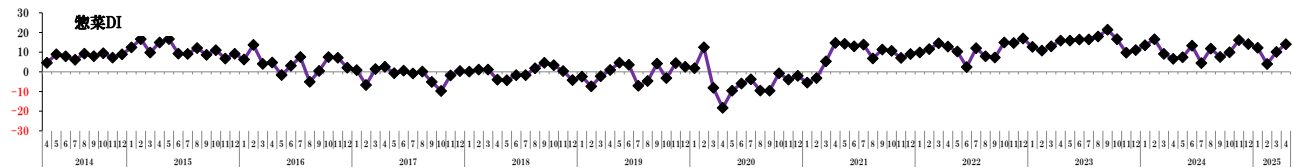
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	6.4	34.6	34.0	19.9	5.1	-4.3
畜産（当月）	5.7	19.3	37.1	28.6	9.3	4.1



引き続き全般的な相場高が継続、豚肉・鶏肉への需要シフトが続くものの前年比では改善傾向がみられた。牛肉は引き続き厳しい状況が続くが、価格が抑えられる切り落としや小間切れなどが堅調に推移。一部からは週末の焼肉ニーズ、入学式などハレの日関連の販売が好調とのコメントもみられた。豚肉は国産豚の価格上昇もあり、前年不振となった輸入豚が好調となった。鶏肉は価格高騰傾向がみられ、伸び悩んだ店舗が多い。味付け肉や冷凍加工品などが、値ごろ感と簡便性で需要が高まっているとのコメントが多くみられた。

4. 惣菜DI：14.1（好調）

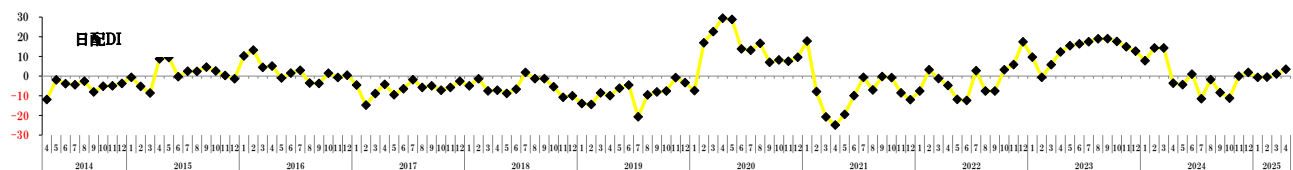
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	1.3	13.5	38.1	37.4	9.7	10.2
惣菜（当月）	0.7	8.6	36.4	42.1	12.1	14.1



コメの価格高騰により、引き続き米飯類が好調に推移。他業態に比べて値ごろ感があるスーパーマーケットの惣菜が支持を受ける一方で、原材料やコスト高騰に対応した値上げも行っているが、利益の確保に苦慮する店舗もみられた。揚げ物・てんぷら類は引き続き堅調に推移した。花見などの行楽関連惣菜は好調となった店舗が多いが、北日本など天候不順の影響を受けた地域もみられた。サラダ関連や冷惣菜は、青果相場の落ち着きとともに一服傾向もみられた。

5. 日配DI：3.5（やや好調）

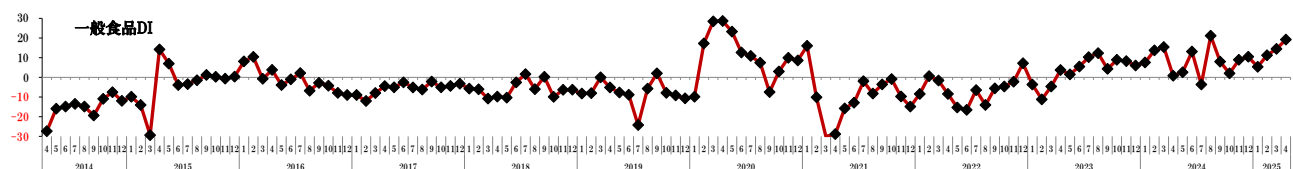
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	5.2	18.8	46.1	26.0	3.9	1.1
日配（当月）	2.1	21.8	41.5	28.9	5.6	3.5



卵は価格高騰により好調に推移した。コメ高騰によってチルド麺類が好調となったが、寒暖差が激しく品揃えに苦心したという声も。納豆や豆腐など値ごろな商品の動きがよい。前年より低い気温でアイスが不調。青果相場の落ち着きにより冷凍野菜も伸び悩んだ。洋日配ではヨーグルトは機能性訴求品を中心に好調、値上げのあったパン類は不調とする声が多いが、コメ価格高騰で食パンが好調とのコメントもみられた。競合店との価格競争激化を指摘する声が多く挙がっている。

6. 一般食品DI：19.1（好調）

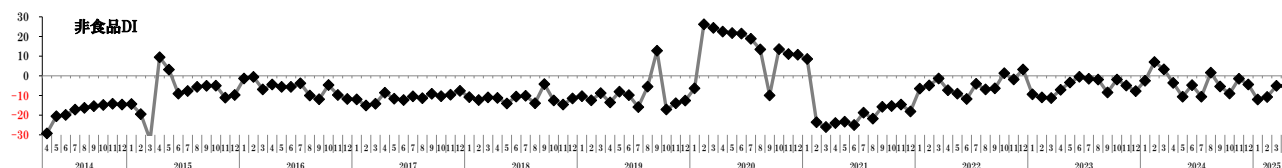
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	1.9	13.5	28.8	36.5	19.2	14.4
一般食品（当月）	1.4	9.9	24.8	38.3	25.5	19.1



コメは価格高騰や供給不足報道等が継続しており、備蓄米の入荷も徐々にあって大きく売上高を伸ばした。レンジ米飯、餅、パスタ、乾麺、インスタント麺類など関連・代替商品の動きもよい。調味料は、ドレッシングなどを除き値上げで不振が続く。菓子類は価格訴求により好調となった店舗が多い。低い気温の影響で、飲料は不振となったが、値上げのあったインスタントコーヒーは順調に推移した店舗が多い。酒類ではビールや酎ハイなどが、4月からの値上がりで駆け込み需要の反動減がみられた。

7. 非食品 DI：-5.1（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	7.8	31.4	38.6	17.6	4.6	-5.1
非食品（当月）	8.8	29.2	40.1	17.5	4.4	-5.1



ティッシュペーパーなど紙製品は値上げの影響で苦戦した店舗が多い。インフルエンザや花粉対策として、マスクに需要増がみられた。前年より気温が低く、季節商品の販売管理に苦心したとのコメントがみられた。ドラッグストアやホームセンターなどとの競合激化を指摘するコメントが多くみられた。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20～

2025 年 5 月調査（4 月実績）キーワード TOP3

1. 米価格の高騰（食品値上げ）
2. 前年より気温が低い
3. 青果相場の落ち着き

（参考）2024 年 5 月調査（4 月実績）キーワード TOP3

1. 前年より週末が一回少ない
2. 気温上昇、花見時期の天候
3. 価格上昇による影響

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

4 月実績速報版 165 社
 3 月実績確報版 146 社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp